

インベントリーシステムによるアジアモンスーンにおける農業環境変動の総合的評価  
— 年刊誌「インベントリー」第2号の発刊に当たって —

Inventory System for Integrated Evaluation of Agro-Environmental Changes in Monsoon Asia

— In Publishing “Inventory No.2” —

上沢正志\*

Masashi Uwasawa

年刊誌「インベントリー」第2号をお届けするにあたり、インベントリーの将来と当センターにおける研究の展望に関して私見を述べます。

インベントリーは、博物館と異なり、情報の発信者と受信者が双方向に通信できる機能を有する自己増殖可能な標本・試料・情報の銀行であり、また、行き先（目的）を異にしますが、標本・試料・情報入手、あるいは、寄贈するために立ち寄るプラットフォームです。

インベントリーシステムは、データベースとしてまとめられることの多い標本・試料・情報を活用する道具です。データベースを検索・結合して、ある地域・流域・国等の環境を総合的に評価し、環境がどう変化してきたのかを把握することが、安心と安全な環境を次世代に継承するために不可欠です。情報の検索・結合と解析結果の鮮明な表示の機能が最低限必要です。

農業環境変動の総合的評価に必要な情報を検索するためには、各種情報に場所と時間の項目は不可欠で、データベース構造の標準化が必要です。環境資源としての土、水、大気、植物、昆虫および微生物等をそれぞれ評価する指標の開発、指標の総合化により結果を鮮明に表示する手法も必要です。これらは、大変やりがいのある今後の研究課題です。

アジアモンスーンでは、水田農業が主体です。気象資源に適合し、人口支持機能も高く、環境資源を浄化・保全する多面的な機能を持っています。EUやアメリカでも、それぞれ自国の位置する領域をインベントリー研究の対象としています。当センターもアジアモンスーンの農業環境インベントリーセンターとして機能したいと念願しています。

組織としては、土壌、昆虫および微生物の分類研究室、これら異業種の交流による相乗効果機能の発揮、具体的な成果が求められています。当面、各専門分野における標本や情報の集積・データベース化と対象とする農業環境資源の変動解析等がおもな課題で、目標は明確、かつ、雄大です。できる限り早急に、システムの原型を作成し、既存のデータベースを活用して、農業環境の総合的評価結果のイメージを示したい。このシステムの原型が、Web上の「農業環境インベントリー」から引き出せ、本誌に掲載され、様々な分野で活用されることを期待しています。

平成14年度には、各方面の協力を得て、特許1件を取得し、農業環境インベントリーの構成要素としての各種データベース6件をWeb公開し、また、研究成果情報2件を発信できました。

充実した農業環境インベントリーの構築のために、是非とも関係者の知恵と情報をお寄せいただきたい。また、本誌掲載事項に関心のある方はお問合せいただきたい。

\* 農業環境インベントリーセンター長